



U B E 株式会社

2022 年度第 3 四半期決算説明会

2023 年 2 月 3 日

イベント概要

[企業名]	U B E 株式会社
[企業 ID]	4208
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2022 年度第 3 四半期決算説明会
[決算期]	2022 年度 第 3 四半期
[日程]	2023 年 2 月 3 日
[ページ数]	29
[時間]	18:00 – 18:50 (合計：50 分、登壇：33 分、質疑応答：17 分)
[開催場所]	電話会議
[登壇者]	1 名 取締役 常務執行役員 CFO 藤井 正幸 (以下、藤井)

登壇

司会：投資家の皆様、こんばんは。本日はお忙しい中、UBE 株式会社の電話会議にご参加いただきましてありがとうございます。これより、取締役常務執行役員 CFO 藤井正幸より、2022 年度第 3 四半期連結決算について約 25 分間ご説明申し上げた後、質疑応答を行います。会議全体の時間は 45 分を予定しております。

電話会議を始めます前に、皆様にお断り申し上げます。これから行う説明におきまして、現時点の予想に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、それらは全てリスクならびに不確実性を伴っています。実際の結果が見通しと異なる場合があることを、あらかじめご了承ください。

それでは、決算説明を開始いたします。藤井常務、よろしくお願いいたします。

藤井：皆さん、こんばんは。UBE の藤井でございます。本日はお忙しいところご参加いただきまして、ありがとうございます。

それでは早速、本日発表いたしました 2022 年度第 3 四半期連結決算と、併せて修正発表いたしました通期業績予想につきまして、お手元の資料に沿ってご説明をいたします。よろしくお願いいたします。

2022年度 第3四半期決算概要

UBE / UBE株式会社

連結対象会社

項目	2021年度末 (A)	2022年度 第3四半期末 (B)	増減 (B) - (A)	摘要
連結 子会社数	65社	36社	△29社	<ul style="list-style-type: none"> + 株式会社エーピーアイコーポレーション - 明和化成株式会社 - UBE Advanced Materials INC. - 有限会社アールコマ - 宇部建設資材販売株式会社 - 宇部興産建材株式会社 - 宇部興産セメントサービス株式会社 - 宇部マテリアルズ株式会社 - 小瀬商事株式会社 - 関東宇部コンクリート工業株式会社 - 関東生コン輸送株式会社 - サンヨー宇部株式会社 - 大協企業株式会社 - 株式会社ニシハマ宇部 - 萩森物流株式会社 - 株式会社富士宇部 - 北海道宇部運送株式会社 + MAPIC Europe NV - 宇部興産開発株式会社 - Advanced Electrolyte Technologies LLC - 一関レミコン株式会社 - 宇部興産海運株式会社 - 宇部興産コンサルタント株式会社 - 宇部サント工業株式会社 - 株式会社大分宇部 - 株式会社関西宇部 - 株式会社関東宇部ホールディングス - 三信通商株式会社 - 新興運輸倉庫株式会社 - 千歳宇部コンクリート工業株式会社 - 萩森興産株式会社 - 株式会社平泉 - 株式会社北海道宇部
持分法 適用会社数	26社	15社	△11社	<ul style="list-style-type: none"> - 宇部三置セメント株式会社 - 鹿野宇部コンクリート工業株式会社 - 株式会社興路宇部 - 別海宇部コンクリート工業株式会社 - やまよ商事株式会社 - 千葉リバーメント株式会社 - 北九州宇部コンクリート工業株式会社 - 中四国宇部コンクリート工業株式会社 - 北陸宇部コンクリート工業株式会社 - UBE Singapore Pte., Ltd. - 山口エコテック株式会社
計	91社	51社	△40社	

3

資料の右下にページ番号が振っております。まず 3 ページのスライド、連結対象会社です。

連結子会社数は 29 社ほど減少しまして 36 社になっております。2 社増、31 社減でございます。右側の摘要欄に具体的な社名をお示ししております。

一番上の欄のエーピーアイコーポレーション、それから MAPIC Europe の 2 社は医薬関係ですが、譲渡を受けまして 12 月から連結に入っております。

それから、明和化成株式会社というのは今年度、子会社から当社に統合いたしました。その他その隣の宇部興産開発、それから、その下の UBE Advanced Materials と Advanced Electrolyte Technologies の 3 社につきましては、清算終了により連結から外れております。

あとその下、アールコマ以下 27 社ございます。これらは全て建設資材の関係でございまして、4 月 1 日付で UBE 三菱セメントに移管をしたことで連結から外れております。

続いて、持分法適用会社でございます。11 社減の 15 社になっております。この 11 社全て建設資材関係でございまして、同じく 4 月 1 日付で UBE 三菱セメントに移管をしたものでございます。

環境要因

項目			2021年度 第3四半期 (A)	2022年度 第3四半期 (B)	差異 (B) - (A)	
為替レート		円/\$	111.1	136.5	25.4	
資材 価格	ナ フ サ	CIF	\$/ t	674	830	156
		国産	円/KL	54,000	79,900	25,900
	ベンゼン (ACP)		\$/ t	977	1,073	96
	豪州炭 (CIF)		\$/ t	156.5	407.5	251.0
			円/t	17,387	55,628	38,241

4

続いて 4 ページのスライド、環境要因でございます。

為替レートはご案内の通り 25.4 円の円安で推移をしております。それからナフサ、ベンゼン、石炭価格、こちらにお示した通りでございますけれども、それぞれ原燃料価格が前年に比べると高騰した状況で、特に石炭価格は前年からかなり大きく高騰した状態が続いたようなところでございます。

主要項目

(単位：億円)

項目	2021年度 第3四半期 (A)	2022年度 第3四半期 (B)	差異 (B) - (A)	増減率
売上高	4,766	3,684	△ 1,082	△ 22.7%
営業利益	328	130	△ 199	△ 60.5%
経常利益	306	△ 33	△ 339	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	181	△ 12	△ 193	-

5

続いて5ページのスライド、主要項目になります。

売上高は終わった第3四半期3,648億円、前年同期比で1,082億円の減収、率にして22.7%になります。営業利益は130億円、同じく199億円の減益になります。率にして60.5%です。それから経常利益は33億円の経常赤字でございます。前年同期比339億円と悪化をしております。親会社株主に帰属する四半期純利益はマイナス12億円で、こちらも最終赤字となっております。前年同期比193億円の減益になります。

先ほども申し上げました、4月1日付でセメント関連事業を分離し、UBE三菱セメントに移管をしておりますので、連結の売上高、営業利益から外れております。

また、売上高につきましては現業部門で原燃料の価格の高騰、これに伴う価格是正、あるいは円安効果などありましたが、セメント関連企業が連結から外れた影響のほうが大きく、減収になっております。

営業利益につきましてはセメント関連の変動に加えまして、隔年のアンモニア停止に伴う数量の減、あるいはまた主としてベーシック事業を中心にして需要減退に伴う販売数量の減少、それからスプレッドの悪化などもあり大幅な減益となっております。

また、営業外損益は持分法投資損益で取り込むUBE三菱セメントの業績が資源価格の高騰で大幅に悪化をしております。そのため、これを取り込んで経常減益幅が拡大をしたところでございます。

一方で、セメント関連事業の移管に際し、一過性の持分変動利益を特別利益に計上したことはございますが、最終的にはご覧の通り、親会社株主に帰属する四半期純利益は12億円の赤字になりました。

セグメント別 売上高/営業利益

(単位：億円)

	セグメント*	2021年度 第3四半期 (A)	2022年度 第3四半期 (B)	差異 (B) - (A)	増減率
売上高	機能品	449	474	26	5.7%
	樹脂・化成品	1,904	2,252	348	18.3%
	機械	708	693	△15	△2.1%
	その他	377	506	129	34.2%
	調整額	1,329	△241	△1,570	—
	計	4,766	3,684	△1,082	△22.7%
営業利益	機能品	88	85	△3	△3.0%
	樹脂・化成品	178	33	△146	△81.6%
	機械	32	26	△6	△18.6%
	その他	16	17	1	6.6%
	調整額	14	△31	△45	—
	計	328	130	△199	△60.5%

*：2022年度より、セメント関連事業の持分法適用関連会社化に伴い、「化学」「建設資材」「機械」「その他」から「機能品」「樹脂・化成品」「機械」「その他」の4区分とし、「医薬」は「その他」に含めています。それに伴い2021年度第3四半期実績についても比較のため新しいセグメント区分に組み替えており、「建設資材」は「調整額」に含めています。

6

続いて6ページのスライド、セグメント別の売上高、営業利益の内訳になります。

機能品はもちろん製品によって差はありますが、トータルしまして26億円の増収です。ただ営業利益は3億円の減益となっております。

今年度からセグメント変更をしており、21年度も新しいセグメントに合わせて組み替えたものを表示しております。表の一番下の欄外のところに注書きをしておりますが、樹脂・化成品は従来のナイロン・ファインと合成ゴムが主体となるセグメントになります。

このセグメントにつきましては、売上は価格転嫁により348億円増収になっておりますが、営業利益146億円の大幅な減益となっております。

機械につきましては、売上高15億円の減収、営業利益も6億円の減益となっております。

それからその他部門ですけれども、このセグメントには医薬とか電力他が入っておりますが、売上は129億円の増収、営業利益はほぼ前年同期並みでございます。

それから調整額でございます。売上高は 1,570 億円の減収となっております。また、営業利益は 45 億円減益となっておりますが、これら大部分がセメント関連事業を移管したことによる影響でございます。

差異分析 全社

(単位：億円)



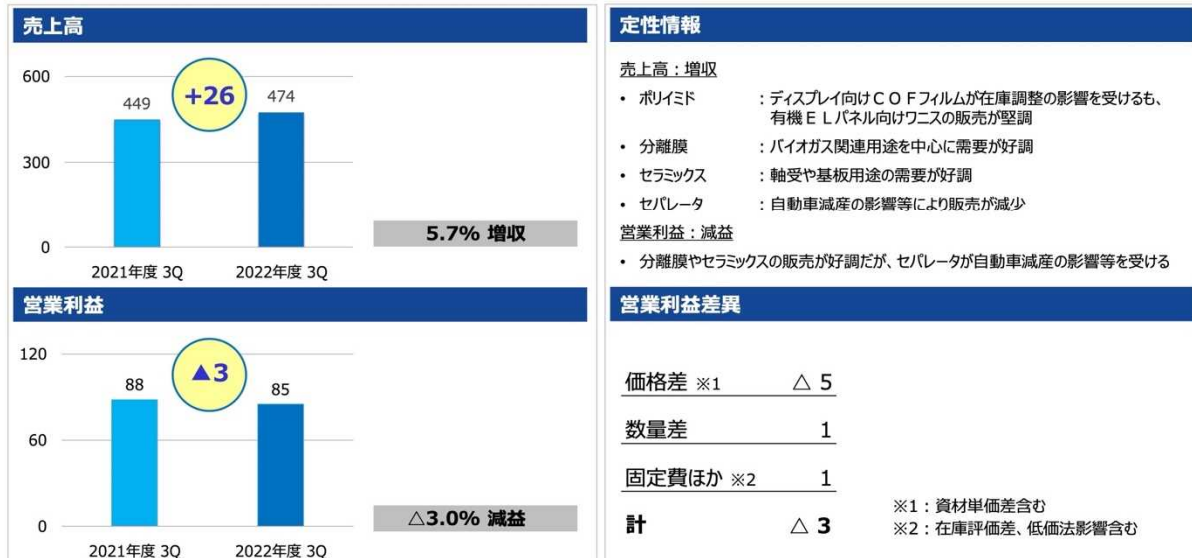
7

続いて、7 ページのスライドになります。全社の差異分析でございます。

左側の数字につきましては、先ほどご覧いただいた通りでございます。このあとセグメント情報がありますので、定性情報等はそこのセグメント情報の中でご説明いたしますが、右下の営業利益差異のところをご覧いただければと思います。トータルで 199 億円減益と申し上げましたが、そのうち価格差で 30 億円のマイナス、数量差で 56 億円のマイナス、固定費ほかで 113 億円のマイナス要因になっております。

差異分析 機能品

(単位：億円)



8

それでは、ここからセグメント別のご説明をいたします。8ページのスライド、機能品です。

売上高につきましては前年同期比で26億円の増収、営業利益が3億円の減益と申し上げました。

右をご覧くださいますと、売上高は増収でございますけれども、ポリイミド、分離膜、セラミックスは増収要因でございます。その下、セパレータはマイナス、減収の要因でございます。ポリイミドはディスプレイ向けCOFフィルムの在庫調整の影響を受けておりますが、一方で有機ELパネル向けのワニスの販売が堅調に推移をしております。

それから分離膜です。バイオガス関連用途を中心に需要が非常に好調に推移しており、増収になっています。それから、セラミックスにつきましても軸受用途、それから基板用途等の需要が好調に推移をしております、増収でございます。

一方、セパレータにつきましては自動車減産の影響等を受けており、販売が減少して減収になっています。

それから営業利益は3億円減益になっております。分離膜、セラミックス等の販売が好調で増益に寄与しておるところでございます。一方で、セパレータ等が自動車減産の影響等を受けて減益等の要因になっています。

その下の営業利益の差異でございます。価格要因としてマイナスの5億円、こちらはセパレータですとか、あとはフェノール樹脂、あるいは樹脂加工品等がマイナス要因になっております。分離膜、ポリイミド等は価格要因のプラスに働いております。

それから、数量差は1億円の増です。売上のところで出てまいりましたがセパレータですとか、あるいは樹脂加工品等がマイナス要因になっており、逆に分離膜、セラミックスはプラス要因になっています。

差異分析 樹脂・化成品

(単位：億円)



9

続いて9ページのスライド、樹脂・化成品セグメントです。

売上高は348億円の増収です。その内訳としましてはパフォーマンスポリマー&ケミカルズで325億円の増収、それからエラストマーが23億円の増収となっております。

一方の営業利益は146億円の大幅な減益になっておりますが、そのほとんどがパフォーマンスポリマー&ケミカルズの138億円の減益であり、エラストマーは8億円の減益という状況でございます。

定性情報でございます。売上高につきましては、ナイロンポリマーにおいて食品包装フィルム用途の需要は海外で減速傾向ではありますが、原料市況の上昇等により、製品価格が上昇しております。

それからラクタム・硫安も原料市況の上昇等で硫安価格等、価格が上昇しております。

それからエラストマーにつきましても、原料価格の上昇等で販売価格は上昇しており、原料価格高騰で一定程度、販売価格への転嫁を進めておりますので、基本的には価格要因として売上高が増収となっております。

一方で、営業利益でございます。原燃料価格の上昇、需要の減退による販売数量の減少、それから隔年のアンモニア工場の停止を行ったといったことの影響でトータルすると146億円の減益になっておるところです。

右下の差異要因をご覧くださいますと価格差として31億円のマイナスで、こちらはラクタム、ナイロンポリマー等がマイナス要因になっております。一方で工業薬品、ファインケミカル等は価格要因プラスでございますが、トータルするとマイナス要因が勝っています。

それから数量差はマイナスの61億円です。こちらでも需給バランスが悪くなっておりますナイロンポリマーですとかラクタム、それから定修のありました工業薬品、ファインケミカルといったところが数量差としてはマイナスに出しております。

それから、固定費ほかでマイナスの53億円になっております。在庫の評価差、低価法の影響等のマイナス要因も入っておりますが、全般的に固定費等上昇しており、これは対外分の為替差による影響はございますが、そういった影響も含めて固定費差等で大きなマイナスが出ておるところでございます。

2022年度 第3四半期決算概要

UBE / UBE株式会社

差異分析 機械

(単位：億円)



10

続いて10ページのスライド、機械セグメントになります。

機械セグメントは15億円の減収、6億円の減益でございます。売上高減収の要因ですけれども、成形機と製鋼はプラス要因になっております。

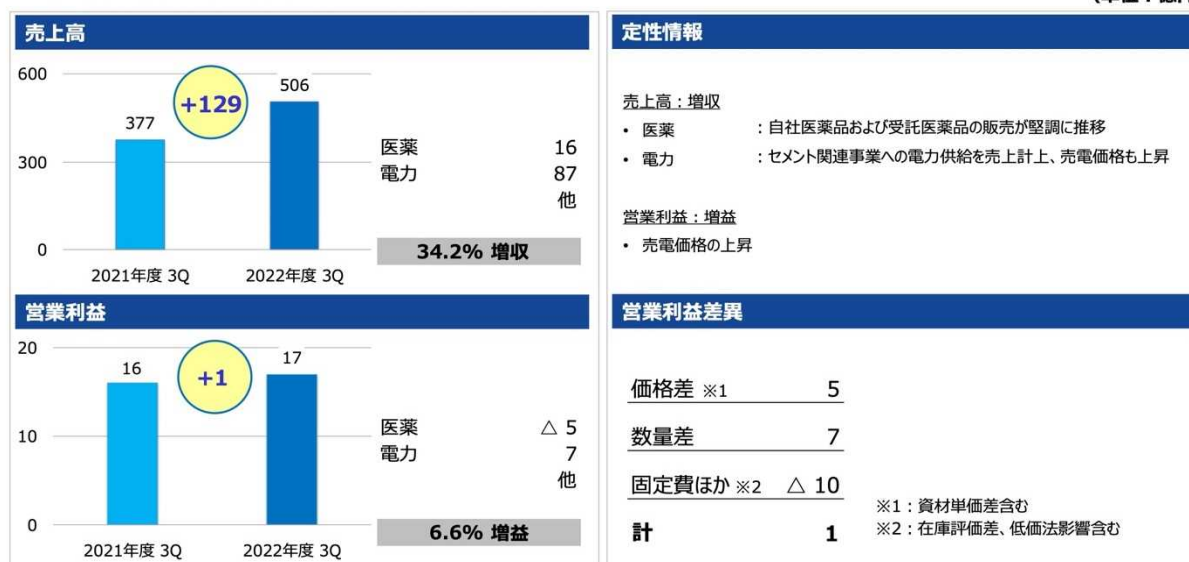
成形機は、自動車産業向け受注回復ということで販売が増加をしております。一方の産機は電力会社向けの運搬機等が前年度は大型案件がありましたが、これが一巡した影響によるマイナス要因が大きいところです。

製鋼事業につきましては原料価格上昇の価格転嫁で販売価格が上昇して増収になっております。一方、営業利益ですが、産機の減収に伴う利益の減、それから製鋼につきましてはエネルギーコストが上昇しており、こちらのコストアップが上回っているということで、これらが減益要因になっているところです。

それから価格差、数量差は、製鋼事業によるものです。固定費ほかは4億円の減益要因です。

差異分析 その他

(単位：億円)



11

続いて11ページ、その他セグメントでございます。

売上は129億円の増収、内訳としましては医薬で16億円、電力で87億円他になります。営業利益は1億円の増益ですけれども、医薬で5億円の減益、一方、電力では7億円の増益でございます。

売上の増収の要因です。医薬につきましては自社医薬品、受託医薬品の販売が堅調に推移をしているところです。それから電力はセメント関連事業、UBE三菱セメントに電力供給を行いますけれども、これが売上に計上されています。それからあと、売電の価格も上昇しておりますので、これらにより増収要因となっております。

それから営業利益でございます。電力につきましては売電価格の価格差の上昇分での増収になっております。

価格差、数量差、固定費ほかでご覧いただきますと、価格差は5億円のプラス要因です。これは電力のところがメインになります。それから数量差は7億円の増益要因です。こちらは医薬品の関係の出荷増といったところでのプラス要因です。

それから固定費ほかで15億円のマイナスでございますけれども、こちらには医薬関係、ロイヤリティの差額も入っております。

営業利益～四半期純利益

(単位：億円)

項目	2021年度 第3四半期 (A)	2022年度 第3四半期 (B)	差異 (B) - (A)
営業利益	328	130	△ 199
営業外損益	△ 22	△ 163	△ 141
金融収支	2	8	5
持分法投資損益	△ 8	△ 151	△ 143
うちUBE三菱セメント㈱に係る持分法投資損益		△ 158	
為替差損益	7	6	△ 1
その他	△ 23	△ 25	△ 2
経常利益	306	△ 33	△ 339
特別損益	△ 25	75	100
税金等調整前四半期純利益	281	42	△ 239
法人税等・非支配株主利益	△ 100	△ 54	46
親会社株主に帰属する四半期純利益	181	△ 12	△ 193
1株当たり四半期純利益	183.34円	△ 11.91円	△ 195.25円

12

続いて12ページのスライド、営業利益以降のところになります。

営業外損益です。終わった第3四半期、実数としましてはマイナスの163億円、前年同期に比べると141億円ほど悪化をしております。

内訳でご覧いただきまして一番影響の大きいところは持分法投資損益で、前年に比べまして143億円ほど悪化をしております。ここにうちUBE三菱セメントに係る持分法投資損益とありますが、新しいセメント新社の最終損益、持分の50%を取り込んでおります。こちらが第3四半期累計で158億円のマイナスを取り込んだところで、ここは影響として非常に大きいところでございます。

そういった影響もあり、経常利益がマイナス33億円の赤字になっております。それから特別損益のところでも終わった第3四半期、75億円のプラスとなっております。これは最初に申し上げます

たセメント関連事業の移管に伴いまして、持分変動利益という一過性の利益が特別利益として計上されたところでございます。

そうした中で、最終的な親会社株主に帰属する四半期純利益はマイナスの12億円と赤字での着地になったところでございます。

貸借対照表

(単位：億円)

項目		2021年度末 (A)	2022年度 第3四半期末 (B)	差異 (B) - (A)
資産	流動資産	3,947	2,905	△ 1,041
	固定資産	4,431	4,574	143
	合計	8,380	7,481	△ 898
負債	有利子負債	2,418	2,227	△ 191
	その他負債	2,021	1,354	△ 667
		4,439	3,581	△ 858
純資産	自己資本*	3,691	3,666	△ 25
	非支配株主持分他	249	234	△ 15
	計	3,940	3,900	△ 40
負債・純資産合計		8,380	7,481	△ 898

*「自己資本」…純資産から新株予約権と非支配株主持分を除外したもの

13

続いて13ページ、貸借対照表になります。

こちらもセメント関連事業を分離移管しましたので、これに伴いまして資産、負債が減少しております。

総資産は終わった第3四半期末7,481億円ということで、前年度3月末に比べ898億円ほど減少しております。建設資材の移管の影響で減った部分が1,365億円ほどありまして、それ以外の残った現業では資産は若干増加しているところです。

それからあと、負債も同じく建設資材の移管により減少しております。一方、自己資本のところでございますけれども、残高が3,666億円で、前期末に比べて25億円ほど減少をしております。

四半期利益が赤字になっておりますし、中間配当の支払いも行っております。こういったところでマイナス要因が出ております。円安により為替換算調整勘定でプラスは出ておりますが、前年度末から25億円ほど目減りをしている状況でございます。

キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

項目	2021年度 第3四半期	2022年度 第3四半期
A.営業活動によるCF	168	51 税金等調整前四半期純利益 42 減価償却費 189 持分法による投資損失 151 持分変動益 △83 運転資金の増減 △128 法人税等の支払 △84 他
B.投資活動によるCF	△ 276	△ 176 短期貸付金の増減 82 有形・無形固定資産の取得 △172 関係会社出資金の払込 △25 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得 △52 他
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	△ 108	△ 125
C.財務活動によるCF	△ 196	87 有利子負債の増減 193 配当金の支払 △106 他
D.現金及び現金同等物の増減 (含、換算差額等)	△ 300	△ 464 会社分割に伴う減少 △433 他
E.現金及び現金同等物の四半期末残高	496	324

14

続いて 14 ページのスライド、キャッシュ・フローになります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、終わった第3四半期 51 億円のプラスでございます。利益が目減りしている部分、それからあと原燃料価格等コストアップにより、運転資金等が増加しているといった影響がございます。

それから、投資活動によるキャッシュ・フローは、マイナスの 176 億円でございます。右の注書き、一番上に書いてございますが、短期貸付金の増減で 82 億円のプラス要因がございます。

これは旧建設資材のグループ会社に貸し付けておりました貸付金ですが、セメント関連事業の移管に伴いましてこれを回収したところでございます。

それを差し引きしたところでの投資活動によるキャッシュ・フローという観点で言いますと、前年並み程度のキャッシュアウトになります。差し引きまして、フリー・キャッシュ・フローは、マイナスの 125 億円になります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当を支払いまして、一方で有利子負債が増加しておりますが、トータルとしましては 87 億円のキャッシュイン、最終的に現金及び現金同等物の四半期末残高は 324 億円で終了しております。

以上が、終わりました第3四半期の決算の概要でございます。

連結対象会社

項目	2021年度末 (A)	2022年度末 (B)	増減 (B) - (A)	摘要
連結 子会社数	65社	37社	△28社	<ul style="list-style-type: none"> + 株式会社イービーアイコーポレーション + UBE Corporation America Inc. - 明和化成株式会社 - UBE Advanced Materials INC. - 有限会社アールコマ - 宇部建設資材販売株式会社 - 宇部興産建材株式会社 - 宇部興産セメントサービス株式会社 - 宇部マテリアルズ株式会社 - 小瀬商事株式会社 - 関東宇部コンクリート工業株式会社 - 関東生コン輸送株式会社 - サンヨー宇部株式会社 - 大協企業株式会社 - 株式会社ニシハリマ宇部 - 萩森物流株式会社 - 株式会社富士宇部 - 北海道宇部運送株式会社
持分法 適用会社数	26社	15社	△11社	<ul style="list-style-type: none"> - 宇部三露セメント株式会社 - 鹿野宇部コンクリート工業株式会社 - 株式会社鋼路宇部 - 別海宇部コンクリート工業株式会社 - やまよ商事株式会社 - 千葉リバーメント株式会社
計	91社	52社	△39社	<ul style="list-style-type: none"> + MAPIC Europe NV - 宇部興産開発株式会社 - Advanced Electrolyte Technologies LLC - 一関レミコン株式会社 - 宇部興産海運株式会社 - 宇部興産コンサルタント株式会社 - 宇部サント工業株式会社 - 株式会社大分宇部 - 株式会社関西宇部 - 株式会社関東宇部ホールディングス - 三信通商株式会社 - 新興運輸倉庫株式会社 - 千葉宇部コンクリート工業株式会社 - 萩森興産株式会社 - 株式会社平泉 - 株式会社北海道宇部

16

続きまして、今年度連結業績予想の説明をいたします。16ページのスライド、連結対象会社でございませぬ。

第3四半期以降、第4四半期での変動で申しますと連結子会社が1社ほど増加いたします。摘要の上から2段目にあるUBE Corporation Americaでございませぬが、これはアメリカの化学事業を統括する統括会社を設立いたしました。これにより、連結に入ってくるものでございませぬ。ただ、これは特に業績への影響はほとんどございませぬ。

持分法適用会社は第3四半期までと変わっておりませぬ。

環境要因

項目			2021年度 (A)	2022年度 (B)	差異 (B) - (A)	
為替レート		円/\$	112.4	135.0 [130.0]	22.6	
資材価格	ナフサ	CIF	702	790 [680]	88	
		国産	56,700	75,400 [63,400]	18,700	
	ベンゼン (ACP)		\$/ t	990	1,020 [865]	30
	豪州炭 (CIF)		\$/ t	170.3	403.5 [390.0]	233.2
円/t			19,133	54,473 [52,650]	35,340	

[] は2023年1~3月のみの数値

17

続いて17ページのスライド、環境要因になります。

2022年度のところ、2段書きになっております。下の括弧がついているところがこの第4四半期の前提になります。

基本的に第3四半期のところまでに比べると、やや価格は落ち着く想定をしております。一方で足元まだ変動して価格が上がったりといったようなところがございます。

主要項目

(単位：億円)

項目	2021年度 (A)	2022年度 (B)	差異 (B) - (A)	増減率
売上高	6,553	5,060	△ 1,493	△22.8%
営業利益	440	200	△ 240	△54.6%
経常利益	415	△ 60	△ 475	-
親会社株主に帰属する当期純利益	245	△ 60	△ 305	-
項目	2021年度末 (A)	2022年度末 (B)	差異 (B) - (A)	
総資産	8,380	7,500	△ 880	
有利子負債	2,418	2,250	△ 168	
自己資本 *1	3,691	3,600	△ 91	
年間配当金 (円/株)	*2 95.00	*3 95.00	0.00	

*1: 「自己資本」…純資産から新株予約権と非支配株主持分を除いたもの

*2: 95.00円 (中間配当金45.00円、期末配当金50.00円)

*3: 95.00円 (中間配当金50.00円、期末配当金45.00円)

18

続いて 18 ページのスライド、主要項目でございます。

今回、主要項目につきまして修正を行いました。修正後の売上高が 5,060 億円で、前回の業績予想に比べると 410 億円ほど下方修正を行っております。

それから営業利益は 200 億円で、前回の予想から 90 億円ほど下方修正をいたしました。

それから経常利益は 60 億円の経常赤字で、前回の予想から 105 億円ほど下方修正をいたしました。

親会社株主に帰属する当期純利益は 60 億円で最終赤字となり、80 億円ほど下方修正をしたというものでございます。

それから総資産、有利子負債、自己資本といったバランスシートはそれほど大きくは変わっておりません。

最後に年間配当金でございます。従来、1 株当たり 100 円を予想しておりましたが、今回、1 株当たり 95 円に修正をしております。中間配当につきましては 1 株当たり 50 円で実施済みでございますので、期末の配当金予想を 45 円といたしました。

今期は最終損益が赤字となる見通しになりましたが、来期につきまして一定程度、業績回復が見込めると考えております。こうした認識のもとで、株主還元の KPI と見ております DOE、株主資本配当率を踏まえた配当を実施したいと考えております。

この考え方は、従来と特に変わっているわけではございませんが、今期は株主資本の積み増しが困難な見通しとなっておりますので、従来予想の 1 株当たり 5 円の増配というものを見直し、前期と同額、1 株あたり 95 円の配当で据え置きに修正をしたところでございます。

セグメント別 売上高/営業利益

(単位：億円)

	セグメント*	2021年度	2022年度	差異	増減率
		(A)	(B)	(B) - (A)	
売上高	機能品	608	650	42	6.9%
	樹脂・化成品	2,600	3,010	410	15.7%
	機械	970	1,010	40	4.1%
	その他	542	750	208	38.3%
	調整額	1,832	△ 360	△ 2,192	-
	計	6,553	5,060	△ 1,493	△ 22.8%
営業利益	機能品	116	130	14	11.8%
	樹脂・化成品	235	40	△ 195	△ 83.0%
	機械	51	45	△ 6	△ 12.3%
	その他	35	25	△ 10	△ 29.5%
	調整額	2	△ 40	△ 42	-
	計	440	200	△ 240	△ 54.6%

*：2022年度より、セメント関連事業の持分法適用関連会社化に伴い、「化学」「建設資材」「機械」「その他」から「機能品」「樹脂・化成品」「機械」「その他」の4区分とし、「医薬」は「その他」に含めています。それに伴い2021年度実績についても比較のため新しいセグメント区分に組み替えており、「建設資材」は「調整額」に含めています。

19

続いて19ページのスライド、セグメント別の売上高/営業利益でございます。

売上高につきましては、機能品は前回の予想から40億円ほど下方修正しまして650億円です。それから樹脂・化成品は同じく390億円ほど下方修正した3,010億円です。機械につきましては前回の予想通り、それからその他につきましては20億円ほど上方修正で750億円、調整額は前回通りで、最終的に5,060億円になっております。

それから営業利益でございます。機能品につきましては前回の予想通りです。それから樹脂・化成品につきましては85億円ほど下方修正をいたしまして40億円です。それから機械は前回の予想通りです。それから、その他につきましては5億円ほど下方修正をいたしまして25億円です。調整額は変わらずで、営業利益トータルで200億円となり、トータル90億円の下方修正を行ったところでございます。

差異分析 全社

(単位：億円)



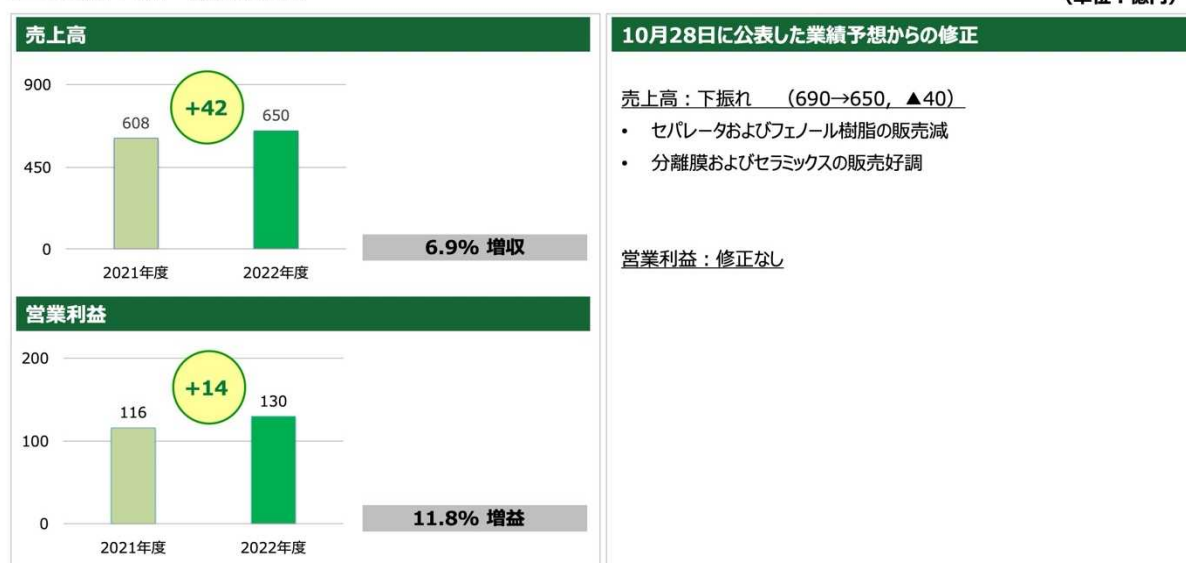
20

続いて、20ページのスライドでございます。

左側の内訳につきましては、前のページでご覧いただいた通りでございます。それから右でございます。こちら先ほど申しました売上、営業利益の修正だけを列挙したものでございます。この後、各セグメントで説明をまいります。

差異分析 機能品

(単位：億円)



21

続いて21ページのスライド、機能品の差異分析です。

左側の売上、営業利益は前年との比較で、機能品としては42億円の増収、14億円の増益になるところでございます。右は前回の業績予想からの修正ポイントでございますが、売上高は先ほど申しましたとおり、40億円ほど下方修正いたしました。

第3四半期までの状況を見据えての修正でございますけれども、セパレータ、それからフェノール樹脂といったところの販売減による下振れの一方、分離膜、セラミックス等販売好調ということがございますが、マイナス要因のほうが勝っているところです。

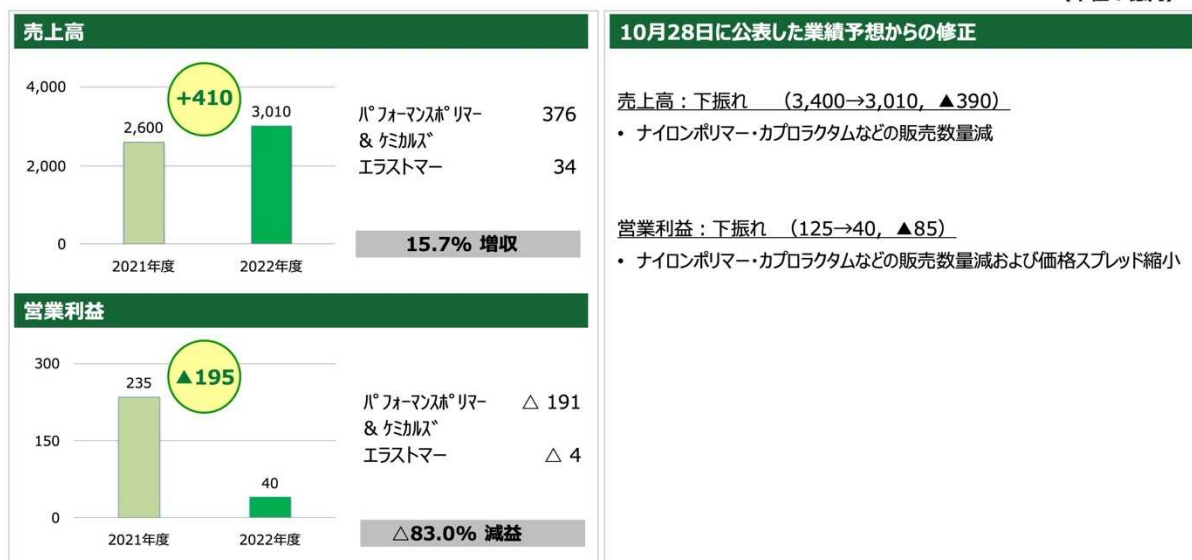
一方で営業利益につきましては、セパレータ、フェノール樹脂等で減少する部分を好調な分離膜やセラミックスといったところの増分でカバーをしています。製品ごとにプラスマイナスありますけれども、全体としては計画線での推移を想定しております。

2022年度 連結業績予想

UBE / UBE株式会社

差異分析 樹脂・化成品

(単位：億円)



22

続いて22ページ、樹脂・化成品セグメントになります。

対前年では410億円の増収で、内訳としてはパフォーマンスポリマー&ケミカルズが376億円、エラストマーで34億円の増収と見ております。

それから営業利益は195億円の減益になります。こちらのもっぱらパフォーマンスポリマー&ケミカルズで191億円の減益、エラストマーは4億円の減益を見込んでおります。

売上高につきましては、こちらこれまで第3四半期までの推移、足元の状況等を踏まえてでございますが、ナイロンポリマー、カプロラクタム等の販売数量の減少について第4四半期に短期的に大幅な改善は見通せないだろうといったところです。一定程度の需給の改善、中国の経済正常化等

の動きといったところも背景にしまして一定程度は改善が期待できるとは思っておりますが、トータルとして売上高は下振れと見ております。

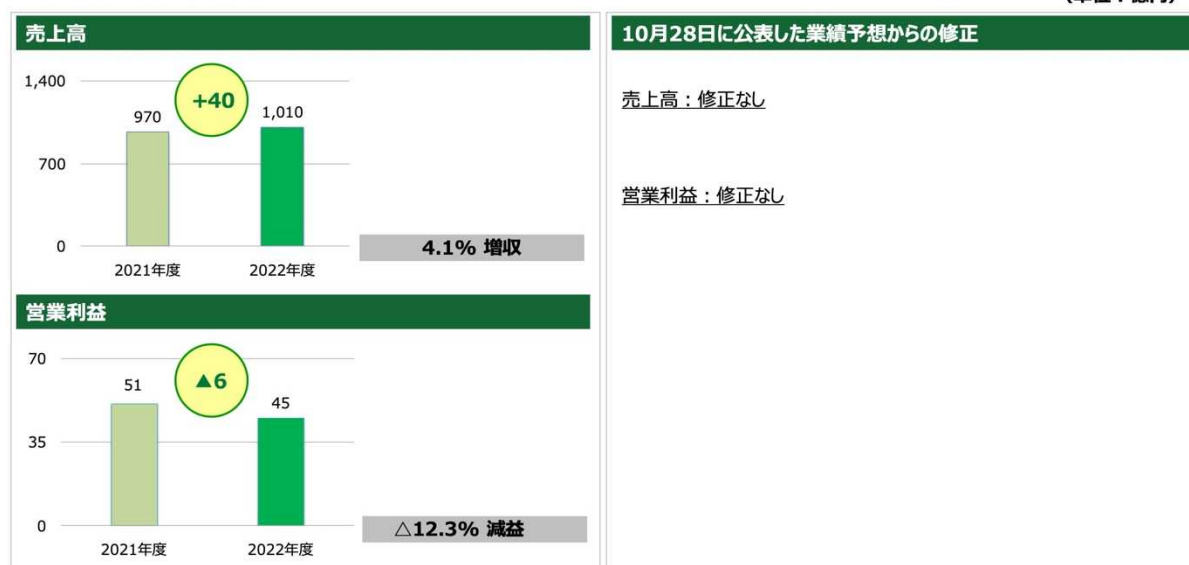
それから営業利益でございます。こちらも売上高の下振れに伴いまして、特にナイロンポリマー、カプロラクタムといったところの販売数量減、それからあと需給のバランスが悪化しており、価格のスプレッドも縮小しているといったところを反映させたところでございます。

2022年度 連結業績予想

UBE / UBE株式会社

差異分析 機械

(単位：億円)

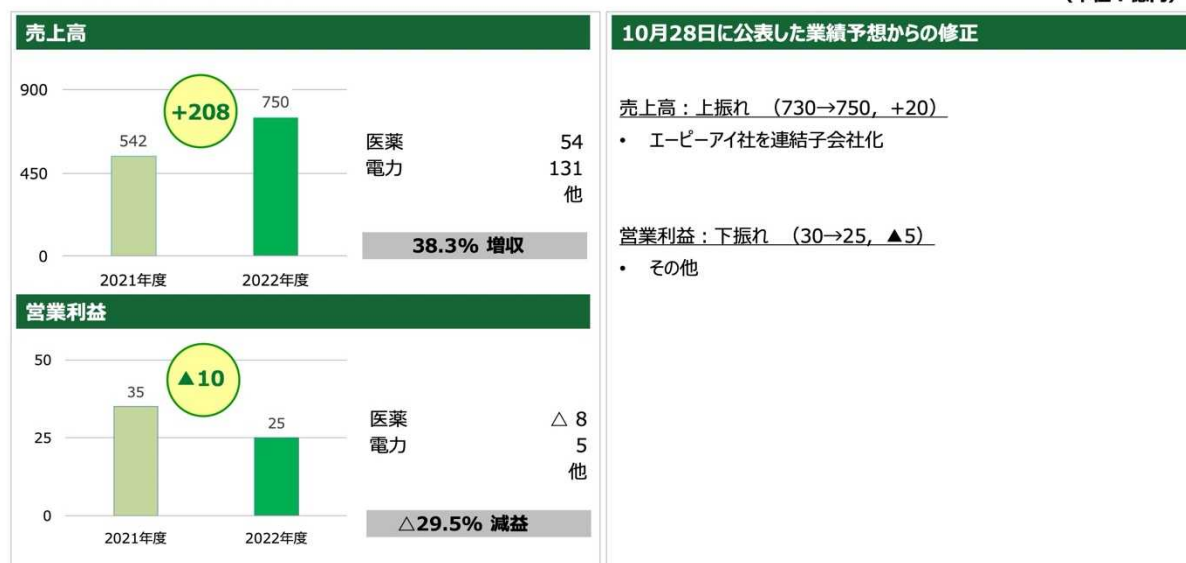


23

続いて、機械部門です。機械部門は特に変更修正はなしでございます。

差異分析 その他

(単位：億円)



24

それから、その他部門につきましては売上高が対前年では208億円の増収になります。

営業利益としては10億円の減益を見込んでいるところです。業績修正に関しましては売上高の上振れを入れておりますが、こちらにつきましてはエーピーアイ社を連結子会社化しましたので、これの売上相当を織り込んでいます。一方で、その他のグループ会社等でマイナス要因がございます。差し引きして20億円の上方修正です。

それから営業利益につきましては、5億円の下方修正ということでございます。こちらはその他のグループ会社等の中での変動要因で、第3四半期までの状況を踏まえて5億円ほど下方修正をしたところでございます。

営業利益～当期純利益

(単位：億円)

項目	2021年度 (A)	2022年度 (B)	差異 (B) - (A)
営業利益	440	200	△ 240
営業外損益	△ 25	△ 260	△ 235
うちUBE三菱セメント㈱に係る持分法投資損益		△ 260	
経常利益	415	△ 60	△ 475
特別損益	△ 48	60	108
税金等調整前当期純利益	368	0	△ 368
法人税等・非支配株主利益	△ 123	△ 60	63
親会社株主に帰属する当期純利益	245	△ 60	△ 305
1株当たり当期純利益	249.31円	△ 61.88円	△ 311.19円

25

それから 25 ページのスライド、営業利益以降でございます。

営業外損益はまた UBE 三菱セメントの持分法投資損益が若干前回の見通しからマイナス要因が増えるという見立てでございますので、営業外損益は 15 億円ほど前回の予想から悪化し、260 億円のマイナスになります。それによりまして経常利益 60 億円の赤字です。

それから特別損益ですが、こちらも減損損失であるとか設備の廃棄損が若干増えそうである見通しでございますので、10 億円ほど下方修正をいたしました。最終的にそれらにより、親会社株主に帰属する当期純利益は 60 億円の赤字の予想になってしまったところでございます。

以上で私のご説明を終わります。

司会：ありがとうございました。

質疑応答

司会： それでは、これから質疑応答に入ります。司会者よりお名前を呼ばれましたら、会社名、お名前の後にご質問をお願いいたします。なお、ご質問につきましては、1問1答形式でお願いいたします。また、多くの方からのご質問にお答えするために、お一人様1回につき2問まででよろしくをお願いいたします。

それでは、質疑応答開始いたします。ではまず最初に、A証券のA様、ご質問をお願いします。

A： A証券のAでございます。ご説明をいただきましてありがとうございます。それでは2問、どうぞよろしくをお願いいたします。

1つ目の質問です。豪州炭の値上がりですが、営業利益のみならず持分法適用会社であるセメント事業も圧迫していると理解しています。ただ、豪州炭の価格は足元では大きく下がってきております。

これは御社の予想には入っていないと思いますが、コールセンターが大きいため在庫があるので、価格下落が業績に効いてくるのは来期以降というようなイメージでしょうか。それとも、これは今期の上振れ余地としてある程度期待してよろしいでしょうか。

また、原燃料価格も下落していますので、機能品を中心にプラス要因になるのではないかと思います。状況はいかがでしょうか。原燃料価格は市況によるものですので、どういう想定でどうなっているのか、という形で回答をお願いします。

藤井： まず石炭関係でございますが、ご理解の通り、スポット価格の変動がすぐに業績に結びつくかという、なかなかそうはいかないところでございます。ですので、基本的には今期もう既にこの段階になっておりますので、今期への影響っていうのは比較的限定的と見ております。

一方で来期以降は従来思っていたものに比べれば、エネルギーコスト等の影響は多少緩和される部分っていうのはあろうかとは思いますが、まさにおっしゃいましたようにこういった資源価格はなかなか想定つきませんので、そのところはあまり楽観的に見すぎないということではないかなと思っています。

それからあと、原燃料価格等につきましても、多少もちろんコストに響いてくるまでにはタイムラグっていうのはあろうかと思ったり、また価格の上下はあろうかと思ったり。

基本的に原燃料価格が下がれば、当然ながらプラス方向に効いてくる部分というのはあろうかと思えます。一方で、原燃料価格の高騰を価格転嫁ということで行ってきておりますので、ここはそういった中で価格をキープしていくことに努めることにはなろうかと思えます。

A：もちろん製品によって跛行性はあると思いますが、これだけ業績が圧迫されていることを考えると、製品価格への価格転嫁はやはり道半ばだと思います。原燃料価格が下がったからといって、あまり下がることを危惧しなくても良いのではないかと思えますが、いかがでしょうか。

藤井：われわれからしたら当然ながらそういうつもりでおります。相手様がいらっしゃるもので、そのところはしっかりと真摯に交渉をしながらということだろうとは思っております。

A：分かりました。交易条件の改善に期待しております。

二問目です。機能品ですけれども、分離膜とセラミックスは上期から調子が良かったので、第3四半期、第4四半期ともに好調が続いている状況と理解してよろしいでしょうか。

また、セパレータについては自動車減産の影響とのことですが、自動車減産の影響が無くなれば回復すると理解してよろしいでしょうか。

併せまして、ポリイミドはディスプレイが第4四半期に落ち込む想定かと思えます。恐らく最終需要が7-9月期ごろから戻ると思いますが、こちら改善要因として期待してよろしいでしょうか。機能品の状況について、詳しくお願いいたします。

藤井：分離膜ですが、ご案内の通り、バイオメタン用の脱炭酸膜の受注、引合い、出荷が非常に拡大をしているところがございます。足元も引合い、受注はどんどん増えております。こうした傾向というのは今後も続いていくと見ております。

それからセラミックスでございますが、こちらEVモーターの軸受ですとか基板用途の需要が旺盛でございます。足元、出荷ももちろん伸びておりますし、今後もEV化の進展に伴いましてこれらの需要、増量要請が非常に強くございますので、今後も需要はさらに増加していくと見ております。

一方のセパレータですけれども、こちら自動車関係の減産影響を受けているところがございますけど、自動車関係もこれからは徐々に回復には向かっていくと見ておりますので、そういったところでは緩やかに回復を期待しているところがございます。

一方で、中国民生向けの出荷が減少した部分がございますので、そういったところの需要が戻ってくれば、また回復につながっていくと期待をするところがございます。

それからポリイミドでございますけれども、パネルとしては昨年下期ごろから既に調整局面に入っていたと思います。当社品への影響は比較的軽微であったところですが、第3四半期に入りましてやはり影響が現れてきているところです。

ですので、第4四半期もこういった傾向はフィルムに対しては続いていくのかなという見立てをしております。

一方で、ワニスにつきましては、スマホがOLEDを採用する機種比率が増えていることや、あるいは新モデルの需要等がございます、こちらも増加しているところです。ポリイミドはフィルムの減少をワニスの増加といったところである程度カバーができてきているような状況でございますが、ご理解の通り、パネル調整もしばらくは続くだろうとは思っております。こちらが回復してきましたら、またそれがプラス要因に働いてくると期待をしているところでございます。

A：ありがとうございます。分離膜とセラミックスはまだ大幅な設備投資は不要という理解でよろしいですか。

藤井：分離膜につきましては既に对外発表しましたがけれども、25年上期稼働で生産能力1.8倍ということで、今鋭意進めているところでございます。

A：どうもありがとうございます。

藤井：ありがとうございます。

司会：ありがとうございました。次にB証券、B様、ご質問をお願いします。

B：B証券のBです。よろしくお願いいたします。

藤井：よろしくお願いいたします。

営業利益 四半期業績推移

(単位：億円)

セグメント	2022年度					通期予想	進捗率
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	累計		
機能品	28	27	30	-	85	130	65.5%
樹脂・化成品	19	5	9	-	33	40	82.0%
機械	4	9	14	-	26	45	58.0%
その他	7	6	5	-	17	25	68.6%
調整額	△ 14	△ 5	△ 13	-	△ 31	△ 40	-%
計	44	42	45	-	130	200	64.9%

32

B：機能品について補足をお願いできればと思います。資料の32ページを見ながら質問しております。2Qから3Qにかけて機能品の利益は増加していきまして、3Qから4Qにかけてもさらに増加する予想になっていると思います。

売上高 四半期業績推移

(単位：億円)

セグメント	2022年度					通期予想	進捗率
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	累計		
機能品	153	165	156	-	474	650	72.9%
樹脂・化成品	714	780	757	-	2,252	3,010	74.8%
機械	203	249	240	-	693	1,010	68.6%
その他	156	178	173	-	506	750	67.5%
調整額	△ 65	△ 86	△ 91	-	△ 241	△ 360	-%
計	1,162	1,286	1,236	-	3,684	5,060	72.8%

31

一方、31 ページでは、機能品の売上高は 2Q から 3Q にかけて売上は減少しています。3Q について、トータルで売上が減少する一方で利益が増加している理由をご説明下さい。また、4Q の利益の増加はどの製品の寄与が大きいのでしょうか。よろしくお願いいたします。

藤井：まず第 2 四半期から第 3 四半期にかけてでございますが、売上が減少している要因といたすのは、セパレータですとか、あるいはフェノール樹脂といったものが第 2 四半期からは減少しているところでございます。

一方で、分離膜ですとかポリイミドが第 2 四半期から増加しております。ポリイミド、分離膜等は売上貢献に比べると利益貢献が大きいものですから、セパレータですとかフェノール樹脂が下がった部分の利益減に対して、売上が同程度上がらなくてもカバーできております。売上は減りながら利益が増加しているのはそういう要因によるところでございます。

第 3 四半期から第 4 四半期にかけての動きでございますが、基本的にそれぞれ製品の基調、傾向は第 3 四半期とあまり大きくは変わらないとは思っておりますけれども、第 4 四半期はこのセグメントに関連して技術料収入が見込まれております。第 4 四半期に計上可能なものを今、織り込んでいくということで、その分、利益が膨らんで見えていることとなります。

B：技術料収入は、新しく入ってきたものでしょうか、それとも元々計画に織り込んでいたものでしょうか。

藤井：これは当初から織り込んでおります。それが計画線に進むだろうという見通しです。

B：ありがとうございます。2 点目は、樹脂・化成品の第 4 四半期の見方を教えて下さい。エラストマーとパフォーマンスポリマーは、第 3 四半期と比べてそれぞれ上向きでしょうか、それとも下向きでしょうか。

また、カプロラクタムやナイロンなど主要な製品について、前提となる数字があれば教えてください。

藤井：第 3 四半期から第 4 四半期にかけてで申し上げますと、パフォーマンスポリマー&ケミカルズは上向きで、エラストマーに関しましては、利益は 3Q よりも下回るという見通しでございます。

まず、エラストマー、合成ゴムですけれども、第 3 四半期もそれほど需要が強いわけではありませんでした。第 4 四半期も同じようにあまり需要に力強さは見られないところがございます。

一方で、第3四半期は原料のブタジエンが先行して下がりましたので、スプレッドがある程度拡大した局面でした。ブタジエンの価格も反転してきておりますので、第4四半期はスプレッドが圧縮されるような局面に入ってくるとは見ております。

それに加え第4四半期、千葉工場を定修する予定になっておりますので、第3四半期に比べるとエラストマーは利益は減少するという見込みをしております。

一方で、パフォーマンスポリマー&ケミカルズでございますけれども、こちらは基調としまして、特にナイロンポリマーですとかラクタムといったところが第3四半期からずっと悪化をしてきたところでございますけれども、特に足元で中国では需要の上向き、反転の傾向が出ているところがございます。

春節明けの様子をしてみる必要がございますが、中国もゼロコロナ政策を転換して景気の正常化に向けて動いておりますので、そういったところから一定程度は改善が期待できるとは見ております。

それからあと硫酸につきましても、タイでこれまで洪水の影響ですとか、あるいは欧州につきましても天然ガス価格の高騰といったような影響がございましたが、この辺りが緩和されてきつつあるところもございますので、第4四半期にかけて一定程度は回復が見込めると見ております。

もちろん、それほど大幅な回復を期待しているわけではございませんが、一定程度の回復を見込んでおります。

それに加えて、第3四半期には低価法の影響によるマイナス要因が入っておりますが、これにつきましては第3四半期で織り込み済みということで、第4四半期にはそういった部が軽減されるといったところもあろうかと思っております。

B: 低価法について、影響額を教えてくださいませんか。

藤井: 樹脂・化成品セグメントで申しますと、低価法の影響と在庫の評価差も含めて、7億円のマイナス影響が入っております。

B: どうもありがとうございました。

藤井: ありがとうございます。

司会: 他にもご質問いただいておりますが、終了予定の時間となりましたので、以上で質疑応答を終了させていただきます。なお、本日お受けできなかったご質問につきましては、月曜日以降、財

務 IR グループよりご連絡をさせていただきますので、何とぞご了承くださいますようお願い申し上げます。

最後に藤井常務、一言ご挨拶をお願いいたします。

藤井：ただ今ご説明いたしましたように、今期の業績は大変厳しい見通しとなってしまいました。足元の業績改善に向けた取り組みは積み重ねてまいります。それとともにスペシャリティ事業の成長、それからベーシック事業の高付加価値化の動きを加速することに努めてまいりたいと思っております。

本日はご参加いただきまして、どうもありがとうございました。

司会：以上で電話会議を終了いたします。ご参加ありがとうございました。

[了]